

撲こそといふはした者の名あり、袖こそといふ女も物に見ゆ、

〔續世繼四〕

宇治の河瀬、白河院の御世に、

○中略

賀茂の女御と世にはいひて、うれしきいはひをどて、あ

ねおとうとのちにつゞきてきこえしかど、それはかの社のつかさ重助がむすめどもにて、女房にまゐりたりしかば御目ちか、りしを、○下略

〔宇治拾遺物語十四〕

いまはむかし、白河院の御とき、北おもてのさうしに、うるせき女ありけり、名をば六とぞいひける、

〔長秋記〕大治四年七月六日壬午、自女院有召、本院

○白河

御霍亂云々、七日癸未、御氣色暫滅、御音不

聞、又不令知人顔、所食纔水許也、女房なつとも、

爲忠妻

いはひを、字賀茂

兩院、資遠、大夫尉資盛、安藝守

等許、候臥内奉助起居、

〔台記〕康治元年六月七日戊辰、依恒例欲奉拜北斗、心懶停了、後聞僕

○藤原賴長

姉妹去三日死去、靈驗揭

焉事也、抑件姉妹者同父異母也、内有得選、名曰祝、字曰不劣、

〔台記〕康治二年十一月七日己未、進士宗廣妾、名兒上成打

〔台記別記〕久安五年十一月六日甲申、使故尼上侍女榮染入内紅衣、十三日辛酉、佐加由留爲尼、垂了

〔平治物語二〕常磐註進并信西子息各被處、遠流事

爰ニ左馬頭義朝ノ末子、九條院雜仕常磐ガ腹ニ三人アリ、

〔源平盛衰記十九〕文覺發心附東歸節女事

文覺ガタメニ、内戚ノ姨母一人アリ、○中略娘一人アリ、名ヲバアトマトゾ云ケル、去共衣川ノ子ナ

レバトテ、異名ニハ袈裟ト呼、

〔源平盛衰記三十五〕巴關東下向事

成清、アレハ木曾○義仲ノ御乳母ニ、中三權頭ガ娘巴ト云女也、